

2023 年度 名古屋演劇ペンクラブ賞決定

五條 園美（日本舞踊家・日本舞踊五條流理事・師範）

和洋のジャンルを超えた表現者による「芸能集団 創の会」の代表兼プロデューサーを務め、次世代継承者が主体の創作舞踊劇「幻想平家物語」（六月 芸術創造センター）で新しい舞踊劇の可能性を追求

中村 勘九郎（歌舞伎役者）

陽春花形歌舞伎（四月御園座）における「怪談乳房榎」での早替り奮闘

中村 七之助（歌舞伎役者）

陽春花形歌舞伎（四月御園座）における「お染の七役」での早替り奮闘

西川 千雅（日本舞踊家・西川流四世家元）

「名古屋をどりNEO傾奇者」（十月名古屋市公会堂）と題して、LED映像、邦楽生演奏、日本舞踊などを融合させ、エンターテインメント性の強い舞台の挑戦

松本 喜臣（劇団シアター・ウィークエンド代表）

身近な題材で紡ぐ地道な定例公演を重ねてきたこと、また、創立五十年記念公演『音吉物語～帰り花 咲きて誇らし 小野浦の浜』（九月愛知県芸術劇場小ホール）再演での成功（五十音順）

《名古屋演劇ペンクラブ賞とは》

1. 多様化する作品、劇場環境に対応しながら、名古屋演劇ペンクラブ賞の歴史を踏まえ各年度の同賞の選考対象を商業演劇 2～4 作品、地元関係 1～2 作品に限定し、その作品の関係者から選定する。
2. 当クラブ会員は選考の対象にしない。ただし、退会者については、別途協議する。

付則

1. 舞台作品は、近年、演劇、音楽、舞踏などの異ジャンルの融合が活発化しているが、当分は、演劇を軸にしたものを対象とする。
2. 会員はそれぞれの専門分野の立場から、翌年以降の候補者についての予備資料または情報を会議の場に提供するようにする。